

平成24年度採択プログラム 中間評価調書 (中間評価後修正変更版)
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	名古屋大学	整理番号	G02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるものは基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) まつお せいいち 氏名・職名 松尾 清一(名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) まえしま まさよし 氏名・職名 前島 正義 (名古屋大学副総長(兼)生命農学研究科・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) すぎやま なおし 氏名・職名 杉山 直 (名古屋大学理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 教授)		
4. 類型	G <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	PhDプロフェッショナル登龍門	
	英語名称	PhD Professional: Gateway to Success in Frontier Asia	
	副題	フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成	
6. 授与する博士 学位分野・名称	文学、歴史学、教育学、教育、心理学、臨床心理学、法学、比較法学、現代法学、経済学、 理学、医学、看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学、工学、農学、国際開発学、学 術、数理学、環境学、建築学、社会学、心理学、地理学、情報科学、創薬科学		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記し		
	文学研究科、教育発達科学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学系研究 科、工学研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、多元数理科学研究科、国際言語文化 研究科、環境学研究科、情報科学研究科、創薬科学研究科に係る分科が対象		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場 合は下線を引いてくださ い。)	文学研究科人文学専攻、教育発達科学研究科全専攻、法学研究科綜合法政専攻、経済学 研究科全専攻、理学研究科全専攻、医学系研究科全専攻、工学研究科全専攻、生命農学 研究科全専攻、国際開発研究科全専攻、多元数理科学研究科多元数理科学専攻、国際言 語文化研究科全専攻、環境学研究科全専攻、情報科学研究科全専攻、創薬科学研究科基 盤創薬学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:名古屋大学 類型:オールラウンド型 プログラム名称:PhDプロフェッショナル登龍門)

14. プログラム担当者の構成 計 50 名					
外国人の人数		1 人	[2.0 %]	女性の人数	
				5 人	[10.0 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [66.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			33 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			23 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				15 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成28年度における役割)
(プログラム責任者)					
前島 正義	マエシマ マサヨシ		名古屋大学副総長(兼)生命農学研究科・教授	生化学、植物生理学・博士(農学)	プログラム全体の進行に関わる統括、研究科間の総合調整
(プログラムコーディネーター)					
杉山 直	スギヤマ ナオシ		理学研究科・教授	宇宙物理・博士(理学)	プログラム全体の実施に関する統括、企画委員会委員長
篠原 久典	シノハラ ヒサノリ		高等研究院・院長	ナノ物質科学・博士(理学)	教育推進室室員：ナノ物質科学の観点によるグローバル・リテラシー教育の開発
飯島 澄男	イジマ スミオ		高等研究院・特別招聘教授	材料科学、電子顕微鏡学・博士(理学)	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
安田 孝美	ヤスダ タカミ		情報科学研究科・教授	社会情報学、メディア情報学・博士(工学)	社会連携室室員：広報戦略を主に担当
大屋 雄裕	オオヤ タケヒロ		慶應大学・教授	法哲学・学士(法学)	国際連携室室長：国際連携を統括すると共に、主にフロンティア・アジアを担当
佐久間 淳一	サクマ ジュンイチ		文学研究科・教授	言語学・修士(文学)	教育推進室室員：「日本文化論」に関わる教育課程の編成と授業の実施の統括
釘貫 亨	クギヌキ トオル		文学研究科・教授	日本語学、日本語学説史・博士(文学)	教育推進室室員：日本文化に対する教育のコーディネート担当
金銅 誠之	コンドウ シゲユキ		多元数理科学研究科・教授	数学・博士(理学)	学生評価室室員：学生の本プログラムにおける活動実績の評価担当
近藤 孝男	コンドウ タカオ		理学研究科・特任教授	時間生物学・博士(理学)	プログラム実施に係る運営組織の統括
蔡 大鵬	サイ タイホウ		高等研究院・特任准教授	資源・環境経済学、産業組織論、国際経済学・博士(経済学)	リクルート・キャリア支援室室員：フロンティア・アジアを中心に留学生リクルートを担当
西澤 淳	ニシザワ アツシ		高等研究院・特任講師	観測的宇宙論、天文学・博士(理学)	教育推進室室員：学際的な教育環境の構築、授業・コースワークの内容の助言と策定、およびカリキュラム・学年暦のアレンジ
杉浦 昌弘	スギウラ マサヒロ		遺伝子実験施設・特別教授	分子生物学・博士(理学)	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
根本 二郎	ネモト ジロウ		経済学研究科・教授	計量経済学・博士(経済学)	教育推進室室長：プログラムのカリキュラム編成全体の統括、企画委員会委員
長谷川 好規	ハセガワ ヨシノリ		医学系研究科・教授	内科学、呼吸器病学・博士(医学)	リクルート・キャリア支援室室長：リクルート、学生のキャリア支援全体の統括、企画委員会委員
氏家 達夫	ウジエ タツオ		教育発達科学研究科・教授	発達心理学、博士(教育学)	学生評価室室員：学生の活動実績指標の開発と評価
土川 寛	ツチカワ サトル		生命農学研究科・教授	木質科学、応用分光学、農業情報工学・博士(農学)	学生評価室室長：本プログラムにおける学生評価全体の統括、企画委員会委員
伊東 早苗	イトウ サナエ		国際開発研究科・教授	応用経済学、社会学・博士(開発学)	国際連携室室員：国際的インターンシップ実施の支援

(機関名:名古屋大学 類型:オールラウンド型 プログラム名称:PhDプロフェッショナル登龍門)

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成28年度における役割)
藤巻 朗	フジマキ アキラ		工学研究科・教授	電子工学・博士 (工学)	社会連携室室長：学外プログラム参加企業・官公庁等との調整、企画委員会委員
福田 真人	フクダ マヒト		国際言語文化研究科・教授	比較文学比較文化、医学史・博士 (学術)	教育推進室室員：異文化理解力増進担当
益川 敏英	マスカワ トシヒデ		素粒子宇宙起源研究機構・機構長	素粒子物理学・博士 (理学)	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
宮田 卓樹	ミヤタ タカキ		医学系研究科・教授	細胞生物学、神経発生生物学・博士 (医学)	教育推進室室員：異分野理解力醸成に向けたカリキュラム開発担当
渡邊 誠一郎	ワタナベ セイイチロウ		環境学研究科・教授	惑星科学・博士 (理学)	教育推進室室員：コースワークアレンジの担当
福田 敏男	フクダ トシオ		名城大学・教授	ロボット工学、ヒューマンインタフェース・博士 (工学)	教育推進室室員：ものづくりを中心とする総合的教育カリキュラムの開発
浅野 碩也	アサノ セキヤ		東海テレビ放送(株)・相談役	放送メディア・学士 (法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
吉田 守孝	ヨシダ モリタカ		トヨタ自動車(株)・役員	自動車工学・学士 (工学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
川口 文夫	カワグチ フミオ		中部電力(株)・顧問	経営・学士 (商学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
小出 宣昭	コイデ ノブアキ		中日新聞社・代表取締役社長	報道・学士 (政治学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
齋藤 明彦	サイトウ アキヒコ		(株)デンソー・特別顧問	自動車工学・博士 (工学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
柴田 昌治	シバタ マサハル		日本ガイシ(株)・相談役	経営・経済産業政策、名誉博士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
土屋 嶮	ツチヤ タカシ		(株)大垣共立銀行・取締役頭取	金融・学士 (法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
筒井 宣政	ツツイ ノブマサ		(株)東海テレビ放送(株)・会長	経営・学士 (経済学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
橋本 孝之	ハシモト タカユキ		日本アイ・ピー・エム(株)・副会長	経営・学士 (工学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
大村 秀章	オオムラ ヒデアキ		愛知県・知事	地方行政・学士 (法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
河村 たかし	カワムラ タカシ		名古屋市・市長	地方行政・学士 (商学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
アルタントヤージクジドスレン	アルタントヤージクジドスレン		前モンゴル国保健省事務次官	国際保健行政・MMA(保健行政修士)	国際連携室室員：フロンティア・アジアとの連携、留学生リクルート担当
城所 卓雄	キドコロ タクオ		前駐モンゴル日本国特命全権大使	国際関係分野・文学士、名誉博士(経済学)、名誉博士(外交学)	国際連携室室員：フロンティア・アジアとの連携、留学生リクルート担当
房村 精一	フサムラ セイイチ		前名古屋高等裁判所長官	民法法・学士 (法学)	コースワーク、インターンシップ支援
松永 和夫	マツナガ カズオ		客員教授 三菱ふそうトラック・バス(株)取締役副会長	経済産業政策・学士 (法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
松中 学 (H27.10.1追加)	マツナカ マナブ		法学研究科・准教授	商法・会社法・修士 (法学)	国際連携室室長：国際連携を統括すると共に、主にフロンティア・アジアを担当
石橋 和紀 (H27.7.1追加)	イシバシ カズノリ		理学研究科・講師	宇宙物理学・博士 (理学)	国際連携室室員：海外リトリート等実施の支援と留学生リクルート担当
足立 守 (H27.7.1追加)	アダチ マモル		PhD登龍門推進室・特任教授	地質学・博士 (理学)	教育推進室室員：授業・コースワークの内容の助言と策定、およびカリキュラム編成担当
勝田 幸秀 (H27.7.1追加)	カツタ ユキヒデ		PhD登龍門推進室・特任教授	国際協力・学士 (農)	教育推進室室員：授業・コースワークの内容の助言と策定、およびカリキュラム編成担当
高橋 裕平 (H27.7.1追加)	タカハシ ユウヘイ		PhD登龍門推進室・特任教授	地質学・博士 (理学)	国際連携室室員：海外リトリート等、および国際的インターンシップ等の実施支援担当
田代 寛之 (H27.7.1追加)	タシロ ヒロユキ		PhD登龍門推進室・特任講師	宇宙物理学・博士 (理学)	プログラムコーディネーター補佐、広報担当
田中 雅光 (H27.7.1追加)	タナカ マサミツ		PhD登龍門推進室・特任講師	超伝導集積回路工学・博士 (工学)	産学官連携室室員：社会人メンター等実施の支援とインターンシップ担当

(機関名:名古屋大学 類型:オールラウンド型 プログラム名称:PhDプロフェッショナル登龍門)

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成28年度における役割)
田中 瑛津子 (H27. 7. 1追加)	タナカ エツコ		PhD登龍門推進室・特任助教	教育心理学・ 修士(教育)	学生評価室室員：プログラムの質保証と 学生の達成度評価担当
野口 道代 (H27.10. 1追加)	ノグチ ミチヨ		PhD登龍門推進室・特任講師	会計学・修士 (経済学)	リクルート・キャリア支援室室員：学生 のキャリア支援と国際的インターンシッ プ等支援
古藪 真紀子 (H28. 4. 1追加)	コヤブ マキコ		PhD登龍門推進室・特任助教	国際開発学・修士 (国際開発学)	国際連携、海外研修担当
田畑 亮 (H28. 4. 1追加)	タバタ リョウ		PhD登龍門推進室・特任助教	植物分子生物 学・博士(農 学)	ヤングメンターとりまとめ担当

(機関名:名古屋大学 類型:オールラウンド型 プログラム名称:PhDプロフェッショナル登龍門)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

[概要] 本プログラムでは、博士号を持ち、企業（起業を含む）・官公庁・マスコミ・政治・司法・国際機関・NPO など、社会のあらゆる分野においてリーダーとして実践的に活躍する職業人、すなわち **PhD プロフェッショナルを養成**する。まず、名古屋大学の高研究力に支えられた高度な専門性は、各部局と密接に連携し、コアとして獲得させる。その上で、さまざまな分野・背景の人々と協働して創造的な成果を生み出すために必要な能力をコアに対するスポークと位置付け、**ディベート力・自己表現力、コミュニケーション能力、マネジメント能力、国際性と異文化・異分野理解力、自律的提案・解決能力などのスポーク**を本プログラムにより獲得することを通じて、コアである優れた学識が社会の中で真に発揮され得るようにする。スポーク能力をも身に付け得る資質は、プログラム参加時の選考により保証する。また本プログラムでは、日本の新たな成長戦略としてのものづくり再生の鍵となる東南・南・中央アジアの諸国を**フロンティア・アジア**と位置づけ、高度な専門力と活動能力を発揮してそれらの地域で活躍しうる人材を日本人・対象国からの留学生の双方において養成する。

組織：本プログラムは独立した運営支援組織として構築し、総長の強力なリーダーシップのもと、部局横断的なマネジメントを実現する。また、本学を代表する研究者、高等研究院フェローであるノーベル賞・文化勲章の受章者ら学術のトップリーダーと、企業・官公庁・マスコミなどのトップリーダーがプログラム担当者として企画段階から参加している。

学位：本籍専攻が博士号を授与する一方、本プログラムは最優秀・優秀・優良の三段階評価に基づくディプロマを発行する。博士号の英語名称は、理念ある研究者であることを示すため **PhD** に統一する。

プログラム：確固たるスポーク能力を獲得するために、本学位プログラムでは次の施策を展開する。

(1)コースワーク：高等研究院フェローや各界トップリーダーによるディスカッション・セッションとロールモデルとしての成功体験講演。他に、文化論、グローバル・リテラシー、コミュニケーションスキル、キャリア形成論などを開講。**(2)キャリア創成プロジェクト「登龍門」**：学生のプロジェクト提案に基づき、自律的な問題発見・課題想定・解決提案までのプロセスを、企業・官公庁・マスコミ等へのインターンシップなどにより実践。**(3)ヤングメンター**：各学生に対し、異なる分野に属する若手特任教員をメンターとして配置、異分野に通じるコミュニケーション能力を養成。**(4)社会人メンター**：企業・官公庁・NPO などから派遣されたメンターを各学生に配置し、多様な人材との共同実践やキャリア意識の強化養成。**(5)国際性の獲得**：フロンティア・アジアを中心に実施する初年次海外研修に加え、2回参加を義務づける10日程度の海外研修、また登龍門による1ヶ月程度の在外研修を経験。本学ノースカロライナ州国際産学連携拠点 (NU Tech) において同州立大学と連携、起業家精神を学ぶことを通じ、キャリアパスを明確化させるための合宿講義 (アンビションキャンプ) を実施。

評価・質保証：ポイントシステムを導入し、メンターからの指導・コースワーク・「登龍門」への参加などプログラムの活動への参加と達成度を評価・数値化して把握する。一定のポイントを獲得することを、博士後期課程以降の本プログラムへの継続参加およびプログラム修了の要件とする。英語についても IELTS、TOEFL の一定スコアを継続要件とする。年度末には成果報告会を開催し、さらに評価に応じプログラム参加1年次学生を対象に「優秀学生表彰」を授与する。

①高度な専門性をコアとして担保しつつ、本プログラムによって、社会のあらゆる場面に柔軟に対応できるようになるスポーク能力を獲得すること、②学術、企業・官公庁・マスコミなどのトップリーダーが直接プログラムに参加すること、特に実社会の各セクターとの連携を強く意識し、社会人メンターの配置や「登龍門」によるインターンシップなどを行なうこと、③名古屋大学がこれまで築いて来た実績に基づいて、フロンティア・アジアと連携してリーダーとなる人材を育成すること。

ノーベル賞をはじめとする高い学術研究の成果、**Young Leaders Cultivation** と名付けた若手特任教員の採用プログラム(高等研究院)、グローバル COE・大学院 GP・グローバル 30 といった教育研究・国際化に資する大型競争的経費の獲得とその運用、法整備支援・人材育成 (政府高官を含む) などを中心としたフロンティア・アジアでの実績、本学の知的財産を紹介する目的でノースカロライナ州に展開する NU Tech、博士号取得者を含むキャリアパス支援のための **B-Jin** など、名古屋大学がこれまでに築き上げてきた実績に基づき、その統合と体系化を通じて新たに構築される学位プログラムであることから、優位性は明らかである。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

PhDプロフェSSIONAL登龍門

フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成

学術分野で活躍するプロフェッサーではなく、高度な専門的知識・研究能力に支えられた多様性を実現することで、社会で実践的に活躍するプロフェSSIONALを養成します。異分野・異文化への理解をもとにフロンティア・アジアと連携し、日本の新たな成長戦略を牽引することのできるリーダーを養成するため、健全な批判精神と責任ある発言力・行動力の獲得を目指します。

